

子どもたちの笑顔と未来のために

～「チームとしての学校教育相談体制」を機能させましょう～

生徒指導や教育相談における「チームとしての学校」とは？

「チームとしての学校」とは、学校が子どもを取り巻く環境の変化や、複雑化・困難化した課題に向き合うため、教職員に加え、様々な分野の専門家が学校教育の支援に参画することにより、学校の教育力や組織力をより効果的に高めることを目的としています。

このリーフレットは、生徒指導や教育相談の場面における専門家との連携のあり方について、学校が組織として考えるためのガイドブックです。

専門機関

県・市町村 福祉事務所

市町村 子育て支援担当課

障がい者総合支援センター

医療機関

県 保健福祉事務所

市町村 生活保護担当課

生活就労支援センター

警察署

県 精神保健福祉センター

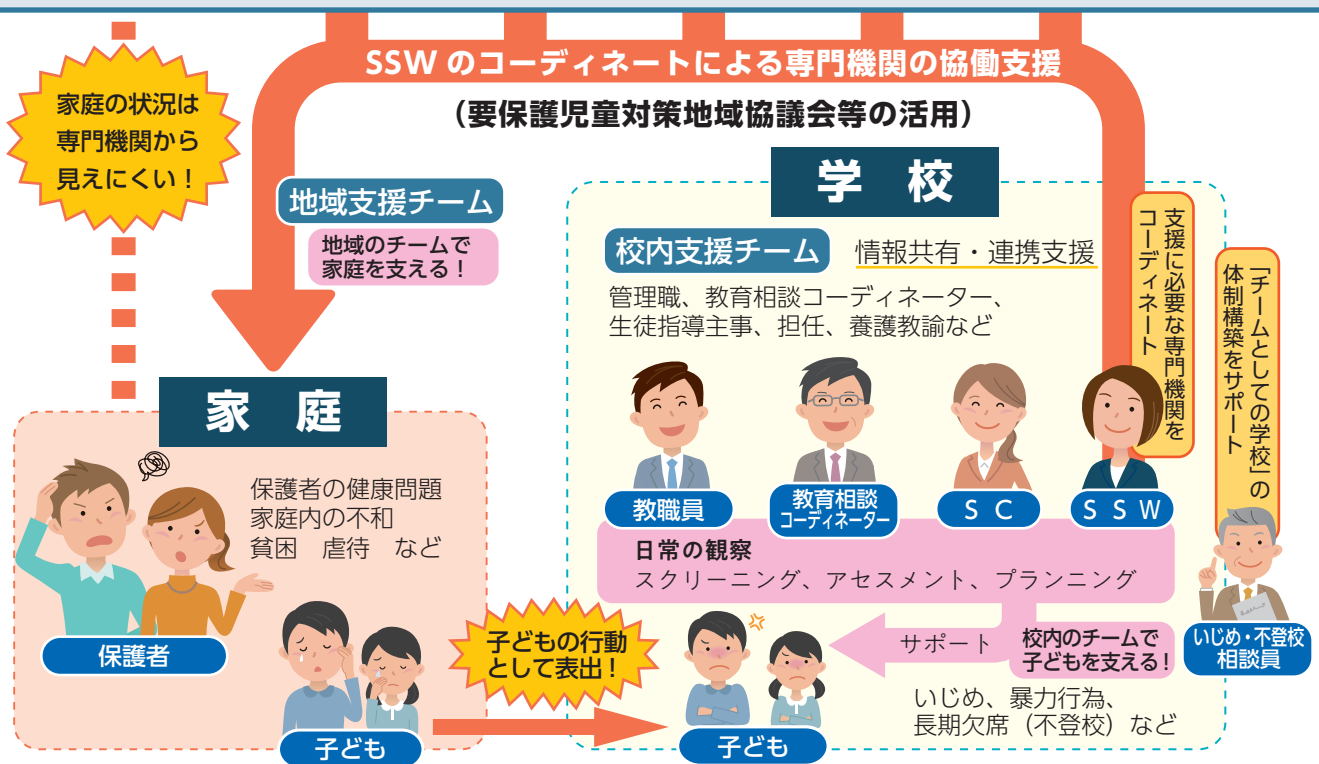
市町村 保健センター

児童相談所

民間支援団体など

SSWのコーディネートによる専門機関の協働支援

(要保護児童対策地域協議会等の活用)



学校だから、子どもの様子の変化に気づく！

教育相談コーディネーターとは？

(学校の実情により、生徒指導や特別支援教育の係が兼ねることも考えられます)

教育相談コーディネーターは、校内外の組織的な支援を実現するための推進役です。

学校の役割

日常的な会話や行動の観察などにより、
子どもの様子の変化をつかみましょう！

教職員が子どもの様子の変化に気づく！

学級担任、教科担任、養護教諭、
クラブ顧問、事務職員 など

教職員みんなの「気づき」が重要です！

子どもにとって学校は、一日のうちの多くの時間を過ごす場所ですから、子どもの様々なSOSのサインを発見できる可能性があります。教職員からみて「こまった子」は、実は「こまっている子」かもしれません。

子どもの様子の変化(例)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 遅刻・早退・欠席が増えた | <input type="checkbox"/> 頻繁に保健室を訪れるようになった |
| <input type="checkbox"/> 学習への取組が悪くなった | <input type="checkbox"/> 作文や作品に心配な表現がある |
| <input type="checkbox"/> 服装や髪型が派手になった | <input type="checkbox"/> 言葉遣いや行動が乱暴になった |
| <input type="checkbox"/> 学校徴収金を滞納している | <input type="checkbox"/> 問題行動が目立つようになった |
| <input type="checkbox"/> 体のアザや怪我が気になる | <input type="checkbox"/> 家庭で十分な食事を取れていない様子 |



しかし、教職員ひとりから見えている子どもの姿には限界があります。子どもの心配な様子に気づいたら、教職員ひとりや学年で抱えず、学校全体で情報を共有しましょう。

「スクリーニング会議」を開催しましょう！

これまでの教育相談は、どちらかという、子どもが困難な状況になってからの対応が中心でした。「スクリーニング会議」とは、支援を必要とする子どもを早期に把握し、適切な支援を早期に開始するための情報共有の場です。新たな会議の場を設定するということではなく、既存の学年会や係会などを利用し、教育相談コーディネーターが中心となって、定期的に支援を必要とする子どもをピックアップしましょう。

教育相談コーディネーターの役割

教育相談コーディネーターの役割(例)

- ▶ 支援を必要とする子どもを把握するための「スクリーニング会議」の開催
- ▶ 支援を必要とする子どもへの支援状況を一元的に把握
- ▶ 個人情報に配慮した個別相談記録等の適切な情報管理
- ▶ SCやSSWと効果的に連携するための調整
- ▶ 学年、学校全体、専門家等を含めた「ケース会議」の開催



教育相談
コーディネーター

既存の学年会や係会を活用

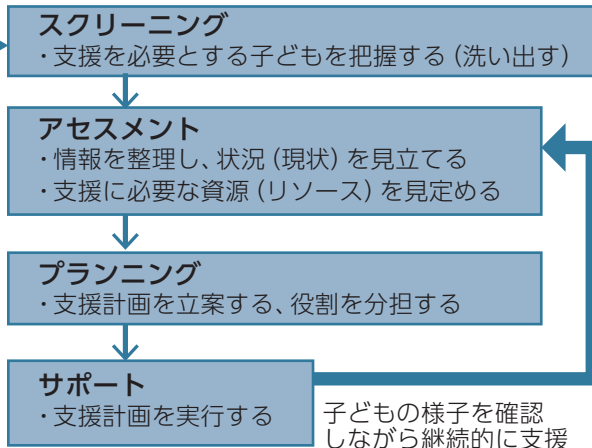
スクリーニング会議の開催

心配な子どもに関わる情報共有を通して、「チーム支援」を必要とする子どもをピックアップしましょう。

参加者の例

教育相談コーディネーター、学級担任、
生徒指導主任、特別支援教育コーディネーター、
養護教諭、クラブ顧問、教科担任、SC、SSW など

チーム支援のサイクル化(イメージ)



教職員の「気づき」と「情報共有」から連携支援がスタートします！

気づく・発見する

情報を共有する

連携する・協働する

学校とSCやSSWが効果的に協働するために

子どもの様子や情報を整理して校内で共有し、支援の目標や見通しを立てるとともに、学校が「すべきこと」「できること」「できないこと」を明確にしながら、SCやSSWと役割を分担しましょう。

学校とSCやSSWが効果的に協働するためのポイント

- 学校が把握している子どもの様子や情報を整理する。
- 学校が把握している子どもの情報をSCやSSWと共有する。
(学校生活の様子、アンケート等の結果、相談記録・アセスメントシートの活用など)
- 学校が、SCやSSWとの協働支援に何を期待しているのかをお互いに確認する。
(不安や不満の背景の明確化、医療や福祉との連携や必要性、支援方法への助言など)
- SCやSSWによるアセスメントの結果や今後の支援の方向性(支援目標)を共有する。

相談記録・アセスメントシートの活用 (情報連携)⇒(行動連携)

県教育委員会では、子どもを支援するために必要な情報を総合的に整理するために、「相談記録・アセスメントシート」を作成し、県内すべての学校に配信しました。

このシートは、すべての項目を埋めることが目的ではありません。SCやSSWとの連携の際はもちろん、校内の支援会議や事例検討会などにもご活用ください。

- ▶ 子どもを取り巻く状況について「わかっていること」と「わからないこと」を整理する。
- ▶ 支援者同士が、子どもに関わる情報と支援目標を共有し、支援の役割を分担する。
- ▶ 支援経過を記録するとともに、進捗状況を確認しながら支援の目標を修正する。

1ページ

- 基本情報
- 欠席状況
- 家族構成
家庭の状況(チェックリスト)

2ページ

- 家庭の状況(項目ごと簡条書き)
- 本人の状況(項目ごと簡条書き)
- 学校生活の状況(項目ごと簡条書き)

3ページ

- アセスメント(見立て)
- 支援目標
- 支援の役割分担
- 連携先一覧

4ページ

- 支援の経過記録(簡潔に簡条書き)

SCの役割

(スクールカウンセラー)

SCは、子どもや保護者へのカウンセリングやアセスメント(情報の整理、見立て)をはじめ、教職員へのコンサルテーション(助言、援助)などを行う「心理の専門家」です。子どもが困難な状況になってからの連携ではなく、様子の変化に気づいたら早期に連携を開始しましょう。

スクールカウンセラーの役割(例)

- ▶ 子どもや保護者へのカウンセリングやアセスメント(情報の整理、状況の見立て)
- ▶ 教職員へのコンサルテーション(助言、援助)
- ▶ 子どもの対人関係スキルを高める関わり(ソーシャルスキルトレーニングなど)
- ▶ スクリーニング会議やケース会議への参加(情報共有、助言)
- ▶ SSWや専門機関等と連携支援するための助言



SC

SSWの役割

(スクールソーシャルワーカー)

SSWは、いじめ、不登校、暴力行為などの背景にある家庭的な問題(貧困、虐待、不和、家族の精神疾患など)に対して、その環境を改善するために必要な専門機関との連携支援をコーディネートする「福祉の専門家」です。子どもや家族との面談(家庭訪問を含む)を通して、子どもを取り巻く環境を総合的に把握し、福祉の制度や資源を活用しながら、子どもとともに家庭を支援します。

スクールソーシャルワーカーの役割(例)

- ▶ 子どもを取り巻く環境のアセスメント(情報の整理、状況の見立て)
- ▶ 保護者や教職員への社会福祉や精神保健福祉の制度等に関わる助言
- ▶ 家庭訪問や専門機関への同行を含めた家庭への支援(助言、援助)
- ▶ スクリーニング会議やケース会議への参加(情報共有、助言)
- ▶ 要保護児童対策地域協議会との連携(地域福祉行政との連携支援体制の構築)



SSW

「予防的な取組」や「早期発見の取組」の段階から連携しましょう!

子どもが困難な状況になってからSCやSSWに「対応」を依頼するのではなく、学校が行っている「予防的な取組」や「早期発見の取組」の段階からSCやSSWとの連携を開始しましょう。

予防的な取組の例 (学校の課題) 対人関係の困難やトラブル等を未然に防ぐ「予防的な取組」が不十分

- ▶ SCが、心理の専門性を活かし、ソーシャルスキルトレーニングやストレスマネジメントなどの支援プログラムをクラス単位で実施。(子どもへのSCの認知度も向上)

→ 子どもがSCに相談しやすくなった

早期発見の取組の例 (学校の課題) 医療など、専門的な支援を必要とする子どもを「早期に発見する取組」が不十分

- ▶ SCやSSWがスクリーニング会議(学年会等)に参加し、専門的な見地から発達障がいや精神疾患(うつ・統合失調)など医療的な支援を必要とする子どもを早期に洗い出す。(その後のカウンセリングを通して、医療機関との適切な連携支援を開始)

→ 二次障害や疾患の重篤化を防ぐことができた